

会長所感 2016

会員の皆様，明けましておめでとうございます．また新会員の皆さん，燕舞会ご入会おめでとうございます．昨年は冬全日本戦で念願の優勝者を出すなど，新会員の皆様の活躍によって，記憶にも記録にも残るシーズンとなったと思います．また，これも悲願であった東工大ホームページ掲載も実現し，学内外で舞踏研究部の知名度が上がったものと確信しています．

さて今年はいよいよオール東工大3校体制が50周年を迎える記念すべき年です．燕舞会は今年度の総会をもって，第5期がスタートいたします．第4期におきましては，代表委員会のコンパクト化，そして若手への大幅な権限委譲策を施行いたしました．代表委員会が若さを武器に機動力を発揮していただき，会の活力を取り戻してくれたことに改めて感謝いたします．しかし同時にオーバーシュート気味の施策に対する批判もあったことと思います．第5期ではこれまでの経験を踏まえ，より多くの会員から共感の得られる燕舞会へ向けたリファインを行なっていく必要があると思っております．

会の創立時に定めた燕舞会の目的は「時間と空間を超え，OB・OGの想いを繋ぐ」ことにあります，これは今も変わることはありません．第4期では，その達成手段は若手の登用でした．私は第5期の課題はアップエイジング，すなわちベテラン層の再参画であると考えます．その意味で，アクティブな会員とノン・アクティブ会員との橋渡しも引き続き重要な課題となります．これらを踏まえ，私は次期会長に求められる人物像を，幅広い世代の会員諸兄から信望があり，多様な価値観を橋渡しできる人と考え，その方に会の今後を託すことにいたしました．

思えば私は創立以来およそ15年にわたり役職として燕舞会に関わってまいりました．その間，おそらくはオール東工大，燕舞会にとって最大の危機であった「女子医大問題」に対し，オール東工大とともに燕舞会としても毅然とした対処が出来たことでOB組織としての責任が果たせたのではないかと考えています．しかしながら私はあまりにも長く会の中枢に留まりすぎました．本会にはすばらしい能力をお持ちの会員（もちろん新会員の皆様も）が大勢いらっしゃいます．今度はその方々のお力をお借りする時が来たと思います．本日まで長きにわたりご指導ご鞭撻を頂きました会員の皆様．そして試合のたびに若さと情熱を分けていただいた現役諸君に感謝いたします．ありがとうございました．

本澤 養樹（東工大 昭和56年卒）

2016/01/16